

第6回 スマートウェルネス三条推進会議（知的支援基盤）開催概要

■日 時：平成26年3月26日（水） 午後1時30分～午後3時

■会 場：三条市役所 2階大会議室

■出席者：久野委員（議長）、川中委員、中村委員、村山委員

※羽藤委員、谷口委員、小林委員、松原委員欠席

TWR・筑波大学

吉澤、鶴園、田辺、横山、千々木、王、金

三条市

國定市長、宗村市民部長、土田建設部長、渡辺福祉保健部長、政策推進課（阿部、諸橋）、生涯学習課（野村）、環境課（小林）、営業戦略室（井上）、地域経営課（吉田）、建設課（諸橋、藤澤、笹倉）、上下水道課（田辺）、高齢介護課（西澤、佐藤）、健康づくり課（関崎、捧、栗林、田村、麦倉、野口、佐々木、大泉）、福祉課（駒形、近藤、松尾、池野）

報道機関 ケンオードットコム

■概要

(1)開会挨拶

國定市長

- ・会議の意見を受けながらスマートウェルネス三条の取組を進めてきた。協会けんぽとの協定に基づく連携事業も着実に進んでいる。三条警察署の小林委員もご栄転されるが、新しい署長の下、三条警察署との関係もスマートウェルネスを橋渡しとして構築していきたい。今日も将来像の構築に向けて議論を深めていきたい。

(2)議長挨拶

(3)平成25年度事業報告

- ・事務局から「歩きたくなる道を考える市民会議」を中心に事業報告

中村委員

- ・鶏か卵かの話になるが、歩きたくさせる環境づくりと同時に自分の意思で歩きたいと思わせる取組もやはり必要であると感じた。高齢化社会の中で、自分が社会に必要とされるために何をするのかを考え、やりがい、生きがいを求めて自ら行動するようになることよい。

村山委員

- ・花の取組が印象に残った。景観をつくと同時に、花を育てることに参加できる流れはよいこと。

久野議長

- ・市民の理解に時間がかかる取組と思うが、手応えや今後の課題について聞きたい。

事務局

- ・スマートウエルネスの考え方について市民の皆さんと深く話し合うことができ、参加者は限られた人数ではあるが、メディア掲載等も通じて考え方の浸透を図ることができた。
- ・ワークショップ形式で開催することで、市民の声も拾いながら施策を練ることができたことに加え、「自分たちでこんな活動ができる」と自発的な取組にもつながっている。
- ・平成26年度の事業においても市民の参加につなげていきたい。

久野議長

- ・考え方を広げるという意味での課題等は何か。

事務局

- ・会議参加者からの口コミ等により参加していない市民にどこまで広げられるかが課題である。

(4)平成26年度事業計画

- ・事務局から別紙により計画説明

村山委員

- ・広場の使い方について、食に関する意見が市民からも多く出たことが印象的である。
- ・朝食提供における昨年度の結果を踏まえた課題や現状分析等について聞きたい。

事務局（食育推進室）

- ・昨年10月に試行的に実施した際は天候不順ではあったが、会話しながら食事を楽しむ方が多くみられ、定期的な開催を望む声もあった。比較的、地元の高齢者が中心だった。

村山委員

- ・この事業で、どのような効果があったかを把握することが重要である。それを計測していく仕組みをどうするのか。どのような客層が来たのか等の分析や、希望するメニューの傾向、選択制でなければニーズなども把握できるとよい。

事務局（食育推進室）

- ・メニューについては、試行時は選択制にしたが、混乱もみられたため今後は定食制にする予定である。

久野議長

- ・どのくらいの頻度で実施していくのか。

事務局（食育推進室）

- ・ 4月から11月まで、月1、2回程度の開催を予定している。保健所の許可を得るにあたり「臨時的な営業」として、月1、2回程度の開催にとどめざるを得ない。広場整備後に常設的な飲食営業許可が下りれば、市場の開設日（月6回）や毎日の営業も検討していく予定である。

中村委員

- ・ 朝ごはんについては、企業人、組織人の間でも異業種交流の機会として、全国的に注目が集まっている。
- ・ 広場の目的として掲げる同年代での交流や、多様な年代の交流を図ることも重要であると思われる。高齢者と子どもたちの交流の中で、高齢者の経験や知恵を活かして伝統を伝えていくことができるのではないか。
- ・ 高齢者が育てた野菜などを市場に売りに来て、その売上で食事をして帰るといった生きがいと結びついた取組になることを期待したい。

村山委員

- ・ 事業のアウトカムをどこに定めるのか。交流を重視した取組にするのか、栄養面を重視していくのか。

事務局（食育推進室）

- ・ 交流機会から参加者の生きがい、生活の質の改善につなげていきたい。栄養面に関しては、週1回、月1回の食事で大きく変わるものとは思わないが、「食」に興味をもつきっかけとして、市場で何か買って帰るような動きにつながるとよいと考えている。
- ・ 当面は、地区内の飲食店からの料理提供を予定しているが、将来的には地元高齢者による飲食品提供の体制を整え、生きがいづくりにもつなげていきたいと考えている。

村山委員

- ・ 交流や生きがいについての変化を見ていく必要がある。

國定市長

- ・ 「高齢者の食と健康に関する調査」で、孤食と生活満足度の相関がみられた。それに加えて提供する側での生きがいを含めて変化を追えるとよいが、客観的な指標についてご意見いただけるとありがたい。

久野議長

- ・ 日本栄養士会の調査によると、自治体が行う料理教室等はほとんど効果がない。料理教室で作り方を習っても、その後の食生活に影響がない。料理教室そのものに意味がないのか、教室運営のやり方の問題なのかは議論が残るところである。
- ・ この事業も食生活の変化を求めるのか、交流の場を求めるのかは明確にした方がよい。特に高齢者の場合は、外出機会と健康に相関があるので、指標の設定は重要である。

川中委員

- ・ 国内外の先進事例は調査しているのか。

久野議長

- ・昨年末、サンフランシスコを視察した際、朝食は中華街で朝がゆをとった。来ているお客さんのほとんどは高齢者で、それぞれやってきて会話をしながら食事をして帰っていくという光景を見た。
- ・その後、付近の公園へ太極拳に出かけたり、太極拳の帰りに寄ったりしているようだった。

事務局（食育推進室）

- ・本事業でも体操等も組み合わせていく予定である。

國定市長

- ・全天候型広場は一部には屋根を掛け、実際の建設は平成 27 年度を予定しており、当面、機能面等を検討していく中のご指摘いただきたい。広場には朝食提供機能も備えていく予定である。

久野議長

- ・全天候型広場は、富山市が先行しているが、取手市等でも整備を検討している。

村山委員

- ・全国の広場の先進事例の中で食事を提供している事例はあるのか。

久野議長

- ・あまりないのではないかと思う。
- ・今年度期待していた事業として「108appy」があるが、今年度の成果と課題、来年度の計画等を聞きたい。

事務局（中心市街地活性化推進室）

- ・昨年 10 月の大規模マルシェから正式にスタートし、丸井今井邸駐車場での民謡踊り講習会、路上での将棋、手芸、スーパー内交流スペースでの折紙教室等を実施してきた。通りすがりで声を掛ける人、地区外からこの事業を目的に訪れ、帰りに買い物をしていく人などがいた。
- ・平成 25 年度は平均週 1 回程度の開催頻度であったが、26 年度は週 10 回程度の開催を目指して調整している。

久野議長

- ・25 年度の振り返りでも、26 年度の予定についても、説明資料に全体的に文字が多く、定性的な話になっている。定量的な評価も検討すべきではないか。

(5) SWC 総合特区作成 DVD

- ・SWC の取組を紹介するため特区事務局で作成した DVD について久野議長から紹介

(6) 平成 25 年度実施生活調査アンケートの分析結果について

- ・久野議長から別紙により説明

- ・健幸クラウドシステム上で健診データや医療費データから見えてくる傾向の原因を探るため、生活習慣等を把握するアンケート調査を実施している。総数で約 750 人の方に回答をいただいたが、今回集計できたのが 367 人となっており、母数としては小さな数となってしまった。特に小学校区別の分析を行うには不足しており、実施していない。
- ・健康ポイント付運動教室を見附市と三条市で実施した。広報誌等による大規模な広報を実施したが、思ったほど加入者は増えなかった。また、参加者のインセンティブの効果も三条市ではあまり変化はなかった。見附市では一部変化が見られたので、インセンティブの与え方による影響もある。

中村委員

- ・事業を全戸配布して周知しても届かないことは、協会けんぽの事業での実感としてもあるところである。今後も行政と事業所、協会けんぽとの連携による周知への効果を期待している。

村山委員

- ・インセンティブ制度については、地域差、県民性等の影響はあるのか。

久野議長

- ・各自治体や企業健保でもインセンティブ制度が盛んだが、これまで行動変容のエビデンス、効果検証はなされていなかった。一部の実証データを見ると無関心層に届いていない。また、無関心層が本当に全員参加してしまうと効果的なインセンティブの原資を負担しきれないという矛盾もある。

川中委員

- ・医療費について、大きな差がある小学校区の特性の違いなどは今後という話だが、可能性などでも思い当たるものはあるのか。

久野議長

- ・今回の分析は、週 2 回以上の運動実施者で比較しているため、生活活動量の差である可能性はある。

事務局（健康づくり課）

- ・医療費が安い小学校区については、医療機関にかかりにくい地域という事情はあると思われる。

午後 3 時 30 分終了